

令和5年度 上河内中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

「人間尊重の教育」を基盤に、21世紀の担い手として「心身ともに健康で主体的に考え表現でき、粘り強く頑張り抜き、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

（2）具体目標 《目指す児童像》

よく考え、学ぶ子ども（知） 自分を見つめ、つくせる子ども（徳） 明るく、たくましい子ども（体）

【合 言 葉】 かしこく・やさしく・たくましく

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

自他の幸せの実現を目指し、変化の激しい21世紀を力強く生き抜くたくましい子供の育成を目指す。また、家庭や地域との一層の連携・協議を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。

- ・児童にとっては、毎日の活動を楽しみにし、「できる」「分かる」喜びが感じられ、自他を大切にする学校
- ・保護者にとっては、安心して子供を通わせ、家庭の役割を自覚して共に力を合わせることでできる学校
- ・地域住民にとっては、学校の取組を理解し目標を共有しながら積極的に連携・協働できる学校
- ・教職員にとっては、教育への情熱をもってチームとして組織的に取り組み、ワークライフバランスを図りながら指導力向上に努める学校

《目指す学校像》 地域に愛され信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

未来を担う子供を育て地域に愛され信頼される学校

- （1）児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、認め合い、学び合い、高め合う集団づくりに努める。
- （2）児童が主体的に学ぶ喜びを感じられるよう、不断の授業改善を行うとともに学習習慣の形成を図る。
- （3）豊かな心や創造性とともに自らの目標の実現に向けて粘り強く努力する心と体のたくましさを涵養する教育活動を推進する。
- （4）教職員が、チームの一員として連携・協働しながら指導力を向上させるとともに、業務改善や勤務時間を意識した働き方を進める。
- （5）組織的な校内体制を整備し、家庭や関係機関との連携を図り、多様な児童の状況に応じた指導・支援を充実する。
- （6）○「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」（以下「地域協議会」）を充実させ、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこく、たくましいゆずっ子の育成

～基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子供を育てよう～

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人間尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。
- （2）心身の発達段階や特性・子供の育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「未来を担う子供を育て地域に愛され信頼される学校」を目指す。
- （3）学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実を目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実に努める。
- （4）各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- （5）前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営

- 校内研修及び地域学校園研修を中心とした教職員の資質・能力の向上
- ・１人１台端末の日常的・効果的な活用を通して、自律した情報の使い手を育む教育の充実
- ・学級や学校の生活上の課題を見だし、課題を解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図る主権者教育の推進（主に特別活動）
- ・地域の教育資源等を積極的に活用し、地域とともにある学校づくりの推進
- ・業務の効率化と勤務時間を意識し、児童と向き合う時間の確保と、心身ともに健康な状態で職務の遂行

（２）学習指導

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
（実生活への活用を意識した上央小授業スタンダードの授業実践）
- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、コミュニケーション能力の向上

（３）児童生徒指導

- ・進んで挨拶し、時と場に応じた言葉づかいを意識できる児童の育成
- 自己有用感を育て、互いに認め合う集団づくりの推進
- 規則を守り、節度ある生活ができる児童の育成
- ・いじめ・不登校等に対する組織的な校内体制整備、家庭や関係機関との連携により、多様な児童の状況に応じた指導・支援の充実

（４）健康（保健安全・食育）・体力

- ・コロナ・リカバリープランとして、教育活動全体を通して、運動の機会を創出する。
- 柔軟性を高め、基礎体力を向上させる。
- ・健康を管理する能力の育成と、正しい姿勢の指導の徹底
- ・給食の時間や教科等における食に関する指導と食文化の学習の充実
- ・登下校の安全指導と災害を想定した避難訓練の実施

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1）確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童 90%以上 児童 90.8% 「児童は、学習課題を解決す	①主体的・対話的で深い学びの場を設定し、ペアやグループ学習などの学び合いを通して、自分と友達の考えを比較させたり関連させたりしながら、自分の考えを表現できる児童を育て、深い学びの実現に努める。 ②授業では、「学習のきまり」を全校で徹底し、上央小算数検定を活用するなど、基礎・基本の定着を図りながら、目標をもって取り組む意欲を育てる。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 90.8%で、指標を達成した。 ・教職員の肯定的回答率も 100%で、指標を達成した。ペアやグループ学習などの学び合いを通して、自分と友達の考えを比較させたり関連させたりしながら、自分の考えを表現できる児童を育て、深い学びの実現に努めている成果と考えられる。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・①については、課題に対する自分の立場や考えを明確にし、友達の考えと比較しながら聞くことにより、さらに考えを深められるようにしていく。

	るために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、粘り強く学習に取り組んでいる」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100.0%	③学習課題を解決するために、見通しをもって友達と話し合ったり必要な情報を集めたりしながら、じっくり考える態度を育てる。	B	
1-(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童 90%以上 児童 92.5% 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100.0%	①道徳教育指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は92.5%、教職員100%で、ともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①②については継続して実施する。 ・③については、全職員が共通理解のもとに一貫性のある指導ができるようにする。
		②体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。	B	
		③児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して、思いやりの気持ちをもち助け合い協力する態度の育成をする。	B	
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童 90%以上 児童 91.8%	①各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、児童が目標の達成に向けて努力している姿を称賛する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率91.8%で、指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、学級・学年において、がんばりやよさを認め、称賛される活動や各種検定を積極的に取り入れる。 ・②については、児童の小さな努力の積み重ねを紹介したり、称賛したりする場を設定し、実践に向けた意欲を高めていく。
		②道徳や学級活動の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせ、そうした実践に向けた意欲を高める。	B	
1-(3) 健康で安全 な生活を実現 する力を 育む教育の 推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童 90%以上 児童 92.5%	①児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行い、さらに各種便り等で保護者に啓発指導を行う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率92.5%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・①については、感染症や熱中症対策について、全職員の共通理解のもと継続的に指導を行う。また、各種便り等で保護者に情報を発信していく。 ・②については、学級活動や家庭科など学校栄養士の専門性を生かした授業を学級で実施しバランスよく食べることの大切さを学年に応じて指導する。 ・③については、日常指導や各活動を計画的に実施し、自らの命を守り抜く行動力を育成することができるようになる。また、各種便り等で保護者に情報を発信していく。
		②学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、学校栄養士とも連携し栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。	B	
		③危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B	

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分のよさや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」 ⇒児童 90%以上 児童 93.2% 「児童は、互いのよさを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100.0%	①児童の自己肯定感を高められるよう、キャリアパスポートを積極的に活用したり、児童相互に認め合う場を数多く設けたりするとともに、担任も児童の成長を認め励ますよう努めていく。 ②日常的に協力する大切さを話し合う時間をとるとともに、学級活動や縦割り班活動での行事の後には、振り返りを行い互いの力を合わせたからこそできたことを実感させる。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 93.2%、教職員は 100.0%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、道徳やキャリアパスポートなど認め合う場を活用し、児童の自己肯定感を一層高める取り組みを継続する。教師が積極的に児童の成長を認め、励ますことを強化し、ポジティブな環境を維持する。 ・②については、教師や上級生を中心に学級活動や縦割り班活動での協力を促進していく。また、振り返りの時間を設け、児童が協力によって成し遂げたことを振り返り、共有することで、協力の大切さを実感させる。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童 90%以上 児童 84.3% 「児童は、外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒教職員 90%以上 教職員 91.3%	①外国語科・外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②外国語科・外国語活動に関する校内研修や授業について意見を交わす機会を充実して指導力の向上を図る。 ③授業の中で、あいさつや会話などの実践的なやりとりを積極的に取り入れ、児童が日常生活に英語を使うようコミュニケーション意欲の向上を図る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 84.3%で指標に届かなかったが、教職員は 91.3%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、外国語指導助手（ALT）を積極的に活用したり、他校との交流学習（オンライン）を活用したりして、積極的にコミュニケーションを図る機会を充実させる。 ・②継続 ・③授業の中で、英語によるコミュニケーションを積極的に図る活動を工夫する。
	A7 児童は、宇都宮のよさを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮のよさを知っている」 ⇒児童 80%以上 児童 90.8% 「児童は、宇都宮のよさを知っている」 ⇒教職員 80%以上 児童 95.7%	①生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 90.8%で、指標を大きく上回った。 ・教職員の肯定的回答率は 95.7%で、指標を昨年度よりも上回った。 【次年度の方針】 ・地域人材を活用したり、校外学習の機会を利用したりして、宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等についての学習を今後も継続していく。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童 90%以上 児童 89.8% 「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100.0%	①児童が個人用パソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業や家庭学習において積極的にデジタル機器を活用する。また、デジタル機器を活用して授業の実践例を互いに紹介し合い、教師の指導力向上に努める。 ②各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 89.8%で指標に届かなかったが、教職員は 100.0%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ①については、一人一台端末の授業や家庭学習における効果的な活用方法について情報を収集し、全職員で共通理解して研修を進めていく。 ①②については、個人用パソコンや情報通信ネットワーク、学校図書館など情報手段を活用するために必要な環境を整え、校内での共通理解を図り活用していく。 ③については、学校図書館教育年間指導計画に沿って、図書館司書と連携を取り、資料として図書の利用を活性化させる。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒児童 80%以上 児童 90.1% 「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒教職員 80%以上 教職員 73.9%	①総合的な学習の時間等における環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②「持続可能な社会」について児童の関心を高めるため、SDGsに関わる内容を授業等で積極的に取り上げる。 ③東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 90.1%と指標を達成した。しかし、教職員の肯定的回答率は 73.9%と指標に届かなかった。 【次年度の方針】 - 総合的な学習の時間を活用し、環境や食をテーマとして地域や世界の学習内容を生かしながら、教科等横断的な学習を実践していく。 - 道徳科の他、社会、理科、家庭科等の教科指導の中で考える視点として、積極的に取り上げていく。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100.0%	①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。また、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応できるようにする。 ②特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の指導計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	【達成状況】 - 教職員肯定的回答率 100%で指標を達成した。 【次年度の方針】 - 特別な支援が必要な児童については、早期発見に努め特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全職員で協力・連携して指導に当たる。また、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応できるようにする。 - 申し送りシート等を活用し、児童の実態の引継ぎを綿密に行う。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」	①「上河内中央小学校いじめ防止基本方針」やいじめ対策のための取組を学年・学級懇談会や各種便り等を通して計画的、継続的に保護者や地域に周知していくとともに、方針に沿っていじめの防止に努める。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 96.8%で指標を達成したが、保護者の肯定的回答率は 86.0%で指標には届かなかった。児童の肯定的回答率の高さから、児童は教師がいじめを許さないという姿勢で指導していることを感じている様子が分かる。 - 学校の「いじめ防止基本方針」に沿っ

	⇒児童 90%以上 児童 98.0% 「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者 90%以上 保護者 85.6%	②いじめの早期発見・早期対応のため、いじめゼロを目指した定期的な無記名式アンケート調査の実施に加え、簡易的な記名式アンケート調査を実施して実態把握に努めるとともに、年に2回の教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。	た「いじめゼロ集会」等の取組を実施したが、各学年便り等での保護者への情報発信が十分ではなかった。 【次年度の方針】 ・いじめゼロ集会や、いじめアンケート、教育相談を通していじめの防止や早期発見に努めることや、いじめ対策のための取組を学校自由参観日や各種便り等を通して計画的、継続的に保護者や地域に周知していく。 ・いじめゼロ集会振り返りカードを通して、家庭において、いじめについて親子で話し合う機会を設ける。 ・年度当初の家庭確認訪問や夏休みの個人懇談、学年・学級懇談等で、交友関係の実態を保護者と共有し、よりよい友達関係の構築に努める。 ・日頃から児童との会話や観察をして、いじめの早期発見・早期対応を心掛ける。また、保護者からいじめの相談があった場合には、丁寧に対応する。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童 90%以上 児童 97.6% 「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100.0%	①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けたり、キャリアパスポートを積極的に活用したりするとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ②教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図り、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 97.6%、教職員は 100%で、ともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、児童が学習活動を振り返り、学びを通した自らの成長や変容を自己評価できるよう、キャリアパスポートを積極的に活用する。 ・不適応傾向のある児童については、教育相談担当や児童指導主任を中心に、全職員で協力・連携して指導に当たる。また、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応できるようにする。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」 ⇒児童 90%以上 児童 96.2%	①「かしこく、やさしく、たくましく」の合言葉の浸透を図り、縦割り班活動や児童会活動を活用して、笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。保護者に対して、学年便りで、行事等での児童の活躍の様子を積極的に伝えていく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 96.2%で指標を達成したが、保護者の肯定的回答率は 88.7%で指標には届かなかった。 【次年度の方針】 ・①については、活気のある雰囲気が醸成できるよう、縦割り班活動や児童会活動など児童が主体的に活動できる様々な取組を学校全体で推進していく。また、保護者に対して学年便りで、行事等での児童の活躍の様子を積極的に伝えていく。

3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり問題の解決に努めたりして、児童が明るいきいきと学校生活を送れるようにしている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 88.7%	②Q-Uの結果を分析し、支援が必要な児童を把握したり、日頃の観察をきめ細やかに行ったりして児童一人一人が生きて学校生活を送ることができる学級経営を行う。	B	・②継続
4- (1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童 90%以上 児童 96.9% 「教職員は児童一人一人を理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 89.2%	①児童の関心や理解を促す教材開発と、授業のねらいの明確化、振り返りの時間の確保など分かる授業を目指した「上央小授業スタンダード」による指導法の工夫に努め、1人1授業を通して共有化を図る。 ②算数科において、習熟度別学習、少人数学習、TTを効果的に実施するとともに、かがやくルームやなかよし学級での個別指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をする。	B	【達成状況】 ・児童肯定的回答率は96.9%で、指標を達成した。 ・保護者の肯定的回答率は89.2%で、指標には届かなかったが、昨年度より改善している。 ・②については、担当者間で情報交換を密にし、分かる授業の工夫・改善に努めてきた。 【次年度の方針】 ・①②ともに継続していく。 ・習熟度別学習や少人数指導については、単元に適した指導形態を今後も柔軟に取り入れていく。
4- (2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100.0%	①学校内において好ましい人間関係の醸成を図るよう努めることで、教職員と学校スタッフとが気軽に声を掛け合える雰囲気作りを行う。 ②打合せ等により全職員が定期的に情報を共有したり、教職員間の「報告・連絡・相談」を推進したりすることで、「風通しのよい・働き甲斐のある職場づくり」に努める。 ③学校目標及び本年度の努力点について共通理解を図り、チーム学校として協働していくことで、同僚性を高められるようにする。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率100.0%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・校内のOJTを促進し、教職員やスタッフの専門性を発揮する場を設けるなど、今後もチーム学校として協力して業務に取り組む。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員 90%以上 教職員 82.6%	①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。また、リフレッシュデーを年間計画に位置付け定時退勤を促進する。 ②教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率82.6%で指標に届かなかった。 【次年度の方針】 ・①②③④継続 ・リフレッシュデー及びリフレッシュウィークを年間予定に位置付け、全職員で定時退勤の促進を図る。 ・出前講座・学校支援ボランティア・地域人材活用学習一覧を作成し、年間を通した計画を立てられるようにする。

		③日課を工夫することで教職員の放課後の時間を確保し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。	B	
		④学習情報システムやさくら連絡網等の各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	B	
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている」 ⇒児童 90%以上 児童 99.0% 「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 83.5%	①6年生の乗り入れ授業・中学校訪問、小中合同あいさつ運動、宮っ子チャレンジなどの行事を通して、積極的な交流を図りながら活動を進める。 ②地域学校園全体研修会における各部会での情報交換を通して、各校が共通理解のもと課題に合った目標を設定し、連携・協力して指導にあたる。更に学校・学年により、HPで発信していく。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は99%で指標を達成した。保護者の肯定的回答率は83.5%で指標には届かなかった。 【次年度の方針】 ①②を実施するとともに、小中一貫教育や地域学校園での活動や取組の様子を学校だよりやHPで家庭や地域へ情報を発信していく。また、懇談会時にも話題にし、小中一貫教育・地域学校園での取組を伝えていく。小中合同挨拶運動、乗り入れ授業の時期を早めて、交流活動の意識を高める。冒険活動教室での合同活動で交流を図る
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童 90%以上 児童 95.2% 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 92.6%	①地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価を実施し地域とともにある学校教育を目指す。 ②校外での体験活動時の安全確保や、田植え、稲刈り、ぼうじぼ作りの学習支援の協力や参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用し、特色ある学校づくりを推進し、家庭や地域への積極的な情報発信を行う。 ③親子ふれあい学習や出前講座、伝統芸能教室等による体験的な活動を積極的に取り入れ、内容の見直しや活動を工夫することで、よりよい活動ができるようにする。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は95.2%、保護者は92.6%とともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。また、引き続き、学年だよりや保健だより、図書だより、学校だより等の各種だよりで家庭や地域への積極的な情報発信を行っていく。
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進			B	
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努め	①日々校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所を迅速に行い環境の整備に努める。	B	【達成状況】 - 保護者の肯定的回答率は93.7%、地域住民は100%とともに指標を達成した。 - 学校を利用するすべての人が安全に過ごせるよう、定期的な安全点検や防災気象情報の収集を行ってきた。

	ている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 93.7% 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒地域住民 90%以上 地域住民 100.0%	②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B B	【次年度の方針】 ・①②③を継続するとともに教育に望ましい環境整備を進め、児童等の安全確保を徹底する。避難訓練等で外部の講師を招いて安全教育指導を充実させる。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務にデジタルを積極的に活用している」 ⇒教職員 90%以上 教職員 87.0%	①一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツール等を効果的に活用する。 ②コンピュータなどのデジタル機器やネットワークが効果的に活用できるよう、活用実践例を互いに紹介し合うなどして活用力の向上に努める。	B B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率 87.0%で指標に届かなかった。 【次年度の方針】 ・①②について、校内外の研修を促進したり、教職員同士が活用実例を共有し合う機会を増やしたりして、学校全体でデジタル機器やネットワークの活用を促進する。また、ICT支援員との連携を図り授業や業務のデジタル化を促進する。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童 90%以上 児童 93.5% 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 90.3%	①児童会によるあいさつや正しい言葉づかいの励行や呼びかけをしたり、年3回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や、地域協議会の挨拶運動や児童によるあいさつ運動で意識を高めたりしながら、日々の生活指導の中であいさつや返事ができる児童の育成を目指す。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 93.5%で指標を達成したが、保護者も 90.3%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・学校独自の取組として、自発的なあいさつの態度や正しい言葉づかいを認め励ます「あいさつ・言葉づかい名人」の表彰を実施しており、次年度も継続して取り組んでいく。 ・児童会を中心に、あいさつ運動を実施する。 ・校内での日常のあいさつや各行事等での実践の他、各家庭や地域でもあいさつや正しい言葉づかいができるように懇談会等であいさつの啓発を行っていく。 ・学年・学校だより等に、学校でのあいさつの様子を掲載して保護者へ紹介していく。
		②学年・学校だより等に、学校でのあいさつの様子を掲載して保護者へ紹介していく。	B	
		③各家庭や地域でもあいさつや正しい言葉づかいができるように懇談会等であいさつの啓発を行っていく。	B	
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童 90%以上 児童 90.4% 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒保護者 90%以上	①児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう、その姿を「上央っ子の誓い」「上河内中央小学校の約束」「上河内中央小学校の一日」「校庭での約束」に示したり、家庭に配付したりして学習と生活のきまりの徹底に努める。また、児童自身が規範意識の改善へ主体的に取り組めるよう、代表委員会を中心に働きかけを行う。 ②生活当番は、秩序があり安全な学校生活を実践できるよう生活目標を設定し、掲示や放送、校内巡視などを行って指導を徹底する。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 90.4%、保護者は 92.2%で、ともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き朝の会や帰りの会で「上央小の約束」「上央小の一日」を取り上げ、定期的に振り返る機会を設けるとともに、放課後・休日等の過ごし方について、家庭と連携を図りながら、より良い生活の習慣が定着できるようにする。 ・②については、生活当番の教員が巡視した際に、必要に応じて放送で注意を促したり、児童指導主任に報告したり

保護者 92.2%	③避難訓練(火災・地震・竜巻・弾道ミサイル・不審者)、交通安全教室、緊急引渡し訓練の実施や「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」への理解や「フィルタリング設定100%キャンペーン」における学校の取組等を通して、児童や保護者に対して正しい使い方とマナーを発信し、情報モラル教育を推進し、危機管理能力を高める。	して共通理解を図り指導に役立てていく。 ・③については、今年度の反省を踏まえ、児童の主体的行動を育成できるよう各種避難訓練の内容改善を図る。また、情報モラルに関する計画的な指導を各学級で実施するとともに、家庭や地域への情報発信等、これまで以上に連携して危機意識を高めていく。
B3 児童は時と場に応じた言葉づかいをしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童 90%以上 児童 89.4% 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 87.1% 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒地域住民90%以上 地域住民 93.8%	①相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる児童の育成を目指し、生活と学習の両面から日常の指導を充実させる。 ②児童会によるあいさつや正しい言葉づかいの励行や呼びかけをしたり、年3回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や、地域協議会の挨拶運動や児童によるあいさつ運動で意識を高めたりしながら、日々の生活指導の中であいさつや返事ができる児童の育成を目指す。 ③朝の会や帰りの会、学校行事、学級活動等で、時や場に応じた適切な言葉づかいができるよう、学年の発達の段階に応じた指導をする。学級懇談会や個人懇談会等でも、言葉づかいについて話題に取り上げる。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は89.4%、保護者は87.1%で指標に届かなかった。地域住民は93.8%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・授業中や大人と話す際の正しい言葉づかい、職員室への入室の際のあいさつの仕方、休み時間の会話における言葉づかい、日常的に「さん」付呼称の仕方等、様々な場面で望ましい言葉づかいの例を示したり、正しい言葉づかいができている児童を称賛したりして、教職員の共通理解のもとで徹底して指導に当たっていく。 ・学級懇談会や家庭訪問、個人懇談等でも「言葉づかい」について話題として取り上げ、家庭と連携を図り指導に当たる。 ・学校独自の取組として、自発的なあいさつの態度や正しい言葉づかいを認め励ます「あいさつ・言葉づかい名人」の表彰を実施しており、次年度も継続して取り組んでいく。
B4 児童は好き嫌いなく食事をしている。(嫌いなものでも一口は食べている。) 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。(きらいなものでも1口は食べている)」 ⇒児童 90%以上 児童 93.9% 「自分の子供は、好き嫌いなく食事をしている。(嫌いなものでも一口は食べている。) ⇒保護者 80%以上 保護者 86.4%	①学校栄養職員の専門性を生かし、担任と連携し給食指導の充実を図りながら食事のマナーを身に付けさせる。 ②栄養バランスを考えた食事指導(嫌いな物も一口食べさせる給食指導の徹底)を行い、望ましい食習慣を育てる。 ③食事をとることの大切さについて、学年に応じた授業を通して理解を深め、お弁当の日や食味体験を活用したり、給食便りや学年・学級懇談会で保護者への啓発を行ったりし、自ら実践する態度を育てる。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は93.9%、保護者は86.4%とともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、学級活動や家庭科など学校栄養士の専門性を生かした授業を各学級で実施し、バランスよく食べることの大切さを学年に応じて指導する。 ・②③については、引き続きお弁当の日やおにぎりの日の事前指導を実施したり、給食日より等で保護者に対して、好き嫌いなく食べることの大切さの啓発や郷土料理の紹介を行ったり、年2回行っている食事マナーチェックシートを活用し、学年・学級懇談会でバランスのとれた食事の大切さを話題にしたりするなどして、啓発をする。

B5 児童は学級や縦割り班の活動などで仲よく助け合っている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学級やにこにこ班の活動では、友達や下級生と仲よく過ごしている」 ⇒児童 90%以上 児童 97.3%		①感染症対策に配慮した上で、日々の清掃活動や学校行事などで、縦割り班での活動の機会を設定し、学年の枠を超えて協力して仕事や活動ができるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 97.3%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・各活動を継続するが、さらに充実させ、安全性、効率性を踏まえて、適切な内容について改善を図る。
B6 児童は自主的に学習に取り組むなど、学習習慣が身に付いている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は自分から進んで学習する習慣が身に付いている」 ⇒児童 90%以上 児童 87.4% 「児童は自主的に学習に取り組むなど、学習習慣が身に付いている」 ⇒教職員 90%以上 教職員 87.0% 「自分の子供は宿題など家庭学習に毎日取り組んでいる」 ⇒保護者 90%以上 保護者 96.2%		①職員間で共通理解を図り、児童が自主的に学習に取り組めるように自主学習ノートや音読カードなど、具体的な方策を立て継続して指導していく。 ②年度当初に全家庭に「家庭学習のすすめ」を配付し共通理解を図り、家庭と連携する。児童には「家庭学習への取組ポイント」を示し指導し低学年(20分)、中学年(40分)、高学年(1時間以上)の家庭学習を実践させる。また、学期1回家庭学習強化週間を行い、よく取り組めた児童の家庭学習ノートを掲示することで、児童の意欲を高める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は87.4%、教職員は87.0%で、ともに指標に届かなかったが、保護者は96.2%で、指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・年度当初に家庭学習の進め方や自主学習の取組の例を児童に説明し、継続的に実施できるように支援していく。また、よい自主学習の取組を紹介していくことで、児童の意欲を高めていく。 ・家庭と連携して、家庭学習の習慣が定着するように、年度当初の保護者会等で家庭に協力を呼び掛けていく。
B7 児童は、上河内地区のお祭り、催事、作品募集などの地域行事に参加している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は、上河内地区のお祭り、催事、作品募集などの地域行事に参加している」 ⇒児童 90%以上 児童 84.3%		①「ゆずっ子写真展」や「あいさつ運動の標語コンクール」の実施方法を工夫し、参加を呼び掛ける。 ②地域で行う「ふれあい祭り」等について、児童・保護者に周知し参加を促す。 ③生活科のまち探検や総合的な学習の時間における地域の調べ学習などを通して、上河内地区のよさに気付かせ、大切にしようとする心情を育む。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は84.3%で指標には届かなかった。 【次年度の方針】 ・①②③継続するとともに、ゆずっ子スクールカレンダーを活用して地域行事を知る機会を増やす。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 学校運営について

- ・全体アンケートでは、多くの項目で市の平均肯定的回答率と同程度の結果となった。
- ・A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気がある」の項目では、児童、教職員において肯定的回答率が90%を超えているが、保護者は、88.7%で目標値を下回った。今後も、保護者、職員間で情報を共有するなど、風通しの良い学校づくりに努めていきたい。
- ・施設や環境の安全に関する項目 A19 では、全対象者において肯定的回答率90%を超える結果となった。施設設備の点検や修繕など、安全に配慮した環境づくりに努めてきた。また、熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健管理を進めた成果と考える。

○地域の教育資源等の積極的活用に関する項目 A18 では、児童・教職員・保護者において市の平均肯定的回答率を上回る結果となった。地域住民においては、94.4%であるが市の平均肯定的回答率を下回っている。感染症対策のためリモートを活用した活動もあったが、総合的な学習の時間や読書指導、食農体験活動、見守り活動などにおいて、地域や家庭の教育力を生かした活動を展開することができた。今後も継続して取り組んでいきたい。

○小中一貫教育に関する項目 A17 では、児童や地域住民において市の平均肯定的回答率を上回る結果となった。保護者の肯定的回答は昨年よりも5ポイント以上上回ったが、目標値に届かない結果となっている。地域学校園内で学校運営に関する情報を共有し、さらに連携・協力を進めたい。また、6年生の乗り入れ授業・中学校訪問、小中合同あいさつ運動、宮っ子チャレンジなどの取組の様子を学校だよりや学校ホームページで家庭や地域への情報発信を継続していききたい。

・職員の勤務時間に関する項目 A16 は、目標値を7ポイント程度下回る結果となった。今後は、さらに働き方改革の視点に立ち、勤務時間を意識した効率的な業務改善に努めていきたい。

2 教育活動の状況について

(1) 学習指導

・A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる」の項目では、児童の肯定的回答は90%を超えているが、保護者89.9%と目標値を下回った。A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている」の項目では、児童の肯定的回答率が96.9%と高評価を得ている。また、B6「児童は、自主的に学習に取り組むなど、学習習慣が身に付いている」の項目では、保護者の肯定的回答率96.2%と大きく目標値を上回った。しかし、児童や教職員の肯定的回答率は、目標値を下回る結果となった。今後は、家庭学習強化週間等をとおして、よく取り組めた児童の家庭学習ノートを掲示するなどをして学習意欲を高め、家庭と連携した学習習慣づくりに取り組んでいきたい。

・宇都宮のよさに関する項目 A7 では、全対象者において定的回答率が、昨年度を大きく上回る結果となっている。次年度はさらに、指導力向上のための研修を通して教職員の共通理解を図るとともに、系統的な指導内容を教育課程に位置付け、発達段階に応じた指導に取り組んでいきたい。

・学習へのICT機器や図書の活用に関する項目 A8 では、全対象者においての市の肯定的回答率を上回った。GIGAスクール構想への取り組みについて、引き続き積極的に進めていきたい。

(2) 児童指導

・縦割り班活動に関する項目 B5 では、全対象者において肯定的回答率が90%を超えた。また、思いやりや優しさに関する項目 A2 でも、全対象者の肯定的回答率が90%を超えている。今後も、児童が思いやりの気持ちをもって友達と協力して生活できるよう支援していききたい。

○あいさつに関する項目 B1 では、地域住民において市の肯定的回答率を下回った。ただ、児童の肯定的回答率は93.5%で市の平均を上回っており、あいさつの仕方の指導が必要と考える。言葉づかいに関する項目 B3 では、全対象者の肯定的回答率が昨年度を上回る結果となった。引き続き「あいさつ・言葉づかい名人」の表彰や日々の生活の中での正しい言葉づかいの賞賛など、継続的に言葉づかいの指導に取り組んでいきたい。

・いじめ対策に関する項目 A11 では、全対象者において市の肯定的回答率を上回った。また、不登校に関する項目 A12 では、保護者において市の肯定的回答率を下回る結果となった。今後も児童に寄り添った指導に努めるとともに、保護者との連絡を密に取り、SCや関係機関等と連携した支援を行っていききたい。

(3) 健康（体力・保健・食・安全）

・昨年度に引き続き、感染症や熱中症対策を中心に指導してきた。今後も家庭と協力・連携し、児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、日常生活指導を中心に取り組んでいきたい。

7 学校関係者評価

・全般を見て、ポイントが前年度より上昇しているのが見える。児童生徒たちが、学校・社会のルールを守り、地域に溶け込んでいる様子が見られた。教職員の努力が感じられた。これからも今の評価を維持し、生徒たちを地域協議会の一員として見守っていききたい。

・おおむね満足されており、いい感じで運営・活動できている。先生方の生活を守りつつ、子供たちのために力を尽くしていただけたこと、ありがたい。学校生活の中で得られることの手助けができていると思う。上河内に住む子供たちは、皆明るく素直で、近所との交流もできる社会性をもった子たちなので、将来が楽しみ。

・全体的に昨年度より数値の上昇がみられるのはとても素晴らしいことと感じる。上央小の子たちはいつも元気で他者を思いやる心もち合わせているので、このまま成長してもらいたい。ただ、時代の変化によって危機管理能力も得ていかないといけないと思う。大人だからと言って無条件で信用するのではなく、相手を見極めていかないと危険なことも多々ある。これは、残念なことだが、身を守る術も必要かと感じる。

・A7「児童は、宇都宮のよさを知っている」について、保護者のみ肯定的回答率が低いので、子供たちの宇都宮のよさを感じている点などの発表の機会などをつくり、伝えられるとよいのではないのでしょうか。

- ・A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」について数値指標で評価して達成状況もパーセントで表しているのは、意味がないのではないかと。いじめがあったのか無かったのか、あったのであればどのように対応したのか報告すべきではないか。児童と保護者の評価に差がありすぎる。
- ・A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」の回答で、児童・教職員の肯定的回答率に対し、保護者の肯定的回答率が低い点が気になる。児童が高めであることから、適切な対応がされていると思うので、保護者への周知が行われれば、より保護者の安心にもつながるのではないかと。
- ・全体的に高い傾向にある中で、B1「あいさつ」について、地域の方が低い評価となっているのが気になる。
- ・B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」の地域住民からのポイントが昨年度よりすごく下がってしまったところが気になる。朝、見守りで立っている時も、自分の子供と同じクラスの子は「おはよう」とあいさつしてくれるが、高学年は、してくれない子供が多いように思う。低学年の方が、元気になっている子供が多い。高学年は、はずかしいのかもしれませんが、あいさつは、社会人になってからも基本ですし、もう少しできるようになるといいと思う。
- ・B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」について、R5年度の77.8%は残念であるが、登下校時の見守りにおいての感想及び実感だが、「時と場に応じたあいさつ」は、していると思っている。B3も同様に「時と場に応じた言葉づかいをしている」と思っている。
- ・B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」では、「地域」の数字にかなりの低下がみられる。そうした中、校内及び家庭ではできているという評価の一方、地域の受け方との隔離があることから、普段あまり顔を合わせない方々と出会った時の自発的なあいさつに力を入れるべきだと思う。そのため、B1の「次年度の方針」の3番目において「正しい言葉づかい」は、B3で出てくるので、「時と場に応じたあいさつ」とした方がよいのではないかと。
- ・今の教育を受けさせてもらえる子供たちはとても恵まれた環境で学んでいることに感謝。支部会・育成会として登下校で多くの子供たちを見る機会を増やすようにしてきたが、B2 B3については、もっとできることがあるのではないかと。それは地域の方にも言えることだが、学校の近くではできることも家庭に近くなるとできなくなることも多い。特にあいさつは、もっとできると思う。あいさつはマナーなので、大人になっても必要なことなので当たり前と思ってほしい。
- ・B7「児童は、上河内地区のお祭り、催事、作品募集などの地域行事に参加している」については、実際いろいろな行事に参加していると思う。子供たちは、作品等で参加しているという実感を得られる活動報告を、地域協議会でも協力できるとよいのではと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・昨年度の結果や市内の小学校の平均と比較すると、全体としては一定の評価を得られたものとする。地域住民の回答において、肯定的回答が市の平均より低く90%を超えていないB1「あいさつ」に関する項目については、登下校時のあいさつの仕方の改善や下校後や休日の過ごし方についても含めて、保護者、地域と連携して改善に努める。B3「正しい言葉づかい」とともに、日常のあいさつや各行事等での実践の他、各家庭や地域でもあいさつや正しい言葉づかいができるように懇談会等であいさつの啓発を行っていく。
 - ・A11「いじめ対策」については、いじめアンケートや教育相談を通して、いじめの防止や早期発見に努めることや、いじめ対策のための取組を学校自由参観日や各種便り等を通して計画的、継続的に保護者や地域に周知していく。保護者からいじめの相談には丁寧に対応し、問題の早期対応に努める。
 - ・A12「不登校対策」については、児童が不登校となった要因を的確に把握し、学校関係者や家庭、必要に応じて関係機関が情報共有し、組織的・計画的な、個々に応じたきめ細やかな支援策を策定するなど、教育相談担当や児童指導主任を中心に、全職員で協力・連携して指導に当たる。
 - ・B6「進んで学習する習慣」については、家庭と連携して、継続的に家庭学習の習慣が定着できるように努める。年度当初の保護者会等で家庭への協力を依頼し、学年だより等で全体的な取組状況を伝えながら、個人懇談等で家庭での様子を確認していく。
 - ・児童理解に努め、校内体制の整備及び家庭との連携により、多様な児童の状況に応じた指導・支援を充実する。
- 「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」を充実させ、地域の教育資源等の積極的活用など、地域とともにある学校づくりの推進に努める。